



# 有明高専だより

第133号  
2011.2



特集 おいしい授業、出前しま～す!!	2・3
シリーズ 卒業を控えて	4・5
シリーズ 人物・いま	6・7
2010アラカルト	8・9
シリーズ 研究室訪問	10
シリーズ 企業(卒業生)訪問	11

冬季球技大会／専攻科ポスターセッション	
／吹奏楽部定期演奏会	12
デザコン／HONDAエコラン	
／ボランティア・コミュニティー賞受賞	13
新学生会／学生会役員研修	14
岱明寮だより	15
トピックス／編集後記	16

※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科 但し、2年生は学年 - 組)

# 特集

# おいしい授業、出前しま～す!!

司会:広報室 森山賀文

本校が行っている小中学校への出前授業について、担当の先生方に語っていただきました。

出席者:出前授業に携わっている先生方(各学科から1名ずつ、主に地域教育支援委員会委員)

M科 吉田先生(委員長)、E科 尋木先生、I科 石川先生、C科 出口先生、A科 小野先生、G科 酒井先生



司会

**森山:** 本日は、ここ数年間、近隣の小中学校に出向いて授業をするという出前授業についてお話を伺いたく、関係の先生にお集まりいただきました。お忙しい中、ありがとうございます。さて、まず出前授業そのものについて、なぜ今、出前授業なのか、その意義をお聞かせください。また、それを行っている学

校の組織について、お教えください。

**吉田:** 高専の存在意義の一つに、地元企業と共同するとか地域の人に高専の持っているものを還元する等の地域貢献があります。そのような地域に貢献することの中の一つに教育支援があります。出前授業や公開講座は地域教育支援の一つで、出前授業が行われている意義は、地域貢献の一環ということになります。地域教育支援を行うには、学校にきちんとした組織が必要ですが、地域教育支援委員会がその組織です。地域教育という分野を定常的に、長く続くように組織化されました。地域教育支援の対象は小中学校の児童・生徒だけでなく、小中学校の先生方や市民の方も対象にしています。高専の教員の一つの仕事として認識していただいて、地域教育支援を全般的に取り組んでいければと思っています。

**森山:** 本校には、地域との連携事業を行う地域共同テクノセンターという組織がありますが、この組織と委員会の関係はどのような関係なのでしょうか。

**吉田:** 地域教育支援委員会は、地域教育支援の実行部署としての役割を担っており、教育支援事業の企画、運営、校内調整、実施、報告、外部団体との交渉など、教育支援事業実施全般に関わる仕事をしています。各学科から選出された委員が、各学科の教育支援事業の世話役となり、学校全体で本事業を実施している体制を作ることをねらっています。テクノセンターは、地元企業と連携する産学部門と、教育に関して地元に貢献する民学部門があります。この民学部門の担当が、地域教育支援に関する本校の窓口となっており、総務課の企画室と連携して外部との連絡窓口の役目を果たしています。そして、テクノセンターの民学担当者が本委員会の委員として参加しており、本委員会とテクノセンターとのパイプ役も担っています。つまり、教育支援については、テクノセンターの民学部門が窓口で、委員会が実働を行っているということです。なお、教育支援事業に係る予算についても、テクノセンターが統括管理しています。

**森山:** 出前授業と公開講座は、どう違うのでしょうか。

**吉田:** 出前授業は、本委員会が作成した出前授業メニューに基づいて、地域の小中学校から教育委員会を通じて申し込みがあったものを、その小中学校に出向いて実施するもので、原則的に学校別(クラス別)に行うことになります。公開講座は本校(あるいは他校との連携)で企画したものを、地域全体に募集をかけ、学校の枠を超えた参加者に対して行うことになります。小中学生を対象にした「ロボットJリーグ」、「シルバーアクセサリー」、「レゴロボ大作戦」、「エレクトロニクスものづくり体験教室」

や、小中学校教員を対象とした教育講座も公開講座に含まれます。これらは、地域教育支援委員会の管轄で、教育委員会と連携して実施しています。ただ、公開講座には、文系一般向け公開講座や教養講座など科学技術教育には入らないものもあり、これらについては、委員会は直接タッチしていません。

**森山:** それでは、各学科が実施している出前授業の内容をお教えください。

**吉田:** 機械工学科では、小中学生を対象にポンポン船、風力カー、ペットボトルロケットを実施しています。

**尋木:** 電気工学科では、小中学生を対象に、クリップモータや身近な電気についての授業を行っています。特にクリップモータが人気です。



石川先生

**石川:** 電子情報工学科は、光やレーザを用いた実験を行っています。また、ライントレーザを作成し、プログラミングする公開講座も行っています。

**出口:** 物質工学科では、高分子ゲルを用いたカラフルな人工イクラの作成、化学反応により犯人を特定するストーリー仕立ての「犯人を探せ」を行っています。

**小野:** 建築学科は、紙で立体物を作る折り紙建築や、地震時の建物の揺れを観測し柱・梁・壁・筋交の重要性を確かめる実験を行っています。他にも、地震や歴史に関する講演、建設技術レベルアップ講座など科学技術以外のことを行っています。



酒井先生

**酒井:** 一般教育科は、液体窒素の極低温を体感してもらう実験を行っています。カーネーションやレタスを凍らせて粉々に潰したり、超伝導現象を見せたりしています。

**森山:** 各学科とも、学科の特徴を活かして、様々なことをされていますね。では、実際に小中学生を対象に授業をされてどのような印象をお持ちですか。よかつたことや苦労したことをお話しいただければと思います。

**吉田:** 高専では学生に授業をしていますが、出前授業に行くことで、小学生から大学生まで幅広い年代の子供たちに教えることができるということは貴重な体験だと思います。時間は短いですが、小中学校の児童・生徒の現状を知ることができるのも楽しみの一つです。また、一人でも多くの子供たちに科学技術教育に興味を持ってもらいたいのですが、みんなに興味を持ってもらおうと考える空回りしてしまうことがあります。気負わずに、一人でも二人でも興味を持ってもらえば良いと、気楽な気持ちで接した方が良いと感じました。

**尋木:** 出前授業を楽しみにしています。何が楽しみかというと、子供たちの我々を見ている目が生き生きしているところです。



石川：子供たちだけでなく主催者側や保護者の力になれるところが、公開講座の良いところだと思います。保護者同伴の公開講座を行うことで、保護者の方に、子供が学校で何をやっているのか見てもらえ、また先生たちと話すことで理科って重要なんだと感じてもらいます。また、TAをしてくれる学生にも責任感などの力を身につけてくれる良い機会になっています。

出口：実験を行って、子供たちから「作ったものを持ち帰つていですか？」、「親に見せよう」などのリアクションがあつたり、興味を持つてもらえたりするのが嬉しいです。また、出前授業や公開講座を受けた子供が入学しててくれるのも嬉しいです。

小野：子供たちは、工作が始まると集中してやっています。でき上ると達成感から喜んでもらえるので、それを見ると嬉しくなります。最近、カッターやハサミを使い慣れていない子供たちが増えたように感じるので、これらの道具に慣れる良い機会になればいいなと思います。

森山：出前授業は、地域貢献の一環として、これからも続くと思いますが、将来に向けて何か考えがおありますか？

尋木：現在は年に1・2回程度ですが、件数が増えると余裕がなくなるかもしれませんので、みんなで分担しながらやっていければ良いなと思います。電気という見えないものを面白おかしく理解してもらうという意味では、クリップモータは成功していると思いますが、他の新しいテーマも考えていくたいと思います。

出口：テレビで放映された科学実験をやってないですか？などの質問もあったので、安全性を考慮した新しいテーマも考えていくたいです。

小野：今後、建築の特性を活かしたテーマを考えていきたいです。

酒井：まったく授業でも扱わない、教科書に載っていないものを見せると興味関心は惹けるが、原理的なところが分からないので、現場の先生の立場からすると果たしてそれでいいのか？という声があります。我々からすると、何が起こっているか分からなくとも興味を持つてもらえばとも思いますが、これからは、小中学校で習っている内容に関連した実験など、発展的なテーマも考えていくたいです。また、現在の予算では道具の数が限ら



出口先生



尋木先生



小野先生

れてしまうので、もう少し予算がつくとありがとうございます。

吉田：地域教育支援の枠組みをきちんと作り、継続していくことが重要です。そのためには、多くの先生に参加していただき、いろいろなアイデアを出していただき、全校で取り組んでいく必要があると思います。また、現在は委員会という位置づけですが、全般的な理解を得ることができれば、将来的には

センター形式で組織化されてもいいのではないかと思います。すでに熊本高専にPBL・総合教育センターが設立されていますが、そのサテライトセンターを各高専に設置し、九州全体で一緒に取り組んでいけばさらに良いと思います。地域教育支援をずっと続けていくと、小中学校や地域の方から頼りにされ、目標にされる存在になれると思います。また、石川先生がおっしゃったように、地域教育支援を学生教育の場として広げ、学生がTAとして、あるいは学生自身が企画にも入り、教員の監督の下で学生発・学生企画・学生実行というのも面白いのではないかでしょうか。これらのことを見実現するのはまだまだ難しいですが、長く続けていればそういうことも可能ではないかと思います。

森山：出前授業をはじめとする地域教育支援が地域貢献や

学生の教育にまで効果を上げる日が来ることを期待します。本日は、お忙しい中、いろいろなお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



吉田先生

#### 2010年度出前授業(12月までに実施済のもの)

期日	担当	対象	内容	人数
9/12	G	八嘉小学校	液体窒素	43
9/30	M	基山中学校	未来の地球を救うのは君たちだ	16
10/14	G	上内小学校	液体窒素	24
11/6	G	笛原小学校	液体窒素	27
11/25	E	平原小学校	クリップモーター	38
11/29	C	右京中学校	液体窒素	27
11/30	E	大正小学校	クリップモーター	32
11/30	E	大正小学校	クリップモーター	28
12/7	M	右京中学校	技術者の役割と夢	29
12/7	C	右京中学校	人口イクラ	27
12/9	G	平原小学校	液体窒素	26
12/13	G	平原小学校	液体窒素	26

#### 2010年度その他の授業(一部)

期日	担当	内容	人数
7/26	I	環境問題を意識した光実験	50
10/25	A	市民大学講座	80
11/13	A	折り紙建築	46
11/28	M	ポンポン船	free
12/11	I	エレクトロニクスものづくり体験教室	46

卒業を控えた5年生の皆さんに、5年間の思い出やこれから抱負等を語っていただきました。



## 出席者

5M 田中 佳一さん(熊大進学)

5E 松尾 衡さん(団長、硬式野球部/TOTOウォシュレットテクノ)

5I 植尾 真帆さん(放送局長、野球部マネージャー/オムロンリーナンデバイス)

5C 堀内 太貴さん(団長、バスケットボール部部長/チツソ株式会社)

5A 江藤 紅音さん(写真部部長/熊大進学)



司会

西山：本日は、卒研の追い込みなどで忙しいところ集まつていただきありがとうございます。この座談会では、卒業を控えた皆さんに5年間の思い出や後輩たちへのメッセージなどをうかがいたいと思います。まず、はじめに、高専で務めた役職やこれからの進路について教えてください。

(上記の通り)

西山：それでは、高専の5年間で一番印象に残ったこと(思い出になったこと)は何ですか?

堀内：部活動です。5年生の高専大会は準優勝だったけど、全国に出場できなかつたので、悔しかつた。

田中：3年生までしか部活やってなかつたけど、1年生の時の練習がとてもきつかったのを覚えています。

西山：今でも記憶に残っているということは、相当きつかったのですね。

田中：相当きつかった。練習が終わつたあと、足がつりそうでした。

松尾：坂西先生から数学を5年間教わりました。非常にわかりやすかったです。あとは、部活動です。最後の九州高専大会では優勝しました。全国大会では、一回戦敗退だつたけど、よい思い出になりました。

西山：私もよい思い出になりました。野球部のみんなに感謝です。

植尾：私もよい思い出になりました。野球部のみんなに感謝です。それと、寮での生活が思い出に残っています。一日中、友達と生活するという経験はあまりないし、いろいろトラブルとかもあつたけど、それを乗り越えられたということがよい経験になりました。

江藤：4年生の研修旅行です。関西方面に行ったのですが、松岡先生の説明が特に印象に残っています。

西山：では次に、高専生活で大変だったことは何ですか?

田中：さつき言つたサッカーのこと・・・。

一同：勉強。レポートとか。設計とか。

松尾：卒研。

西山：卒研はどんな具合ですか。

松尾：終わる気が全くしませ

ん。

西山：今やっている研究を論文などの形にするということは、今後の君たちの人生の中で、必ず、いきますので、大変でしょうが、あと少し頑張ってください。



松尾さん

一同：はい。

西山：他に大変だったことはないですか?

田中：レポートが多かつたことです。特に、4年生では多かつた。機械科では、認定試験があるので、それと重なるとさらに大変でした。

松尾：毎週レポートを提出しなくてはならなくて、考案を考えるのが大変でした。それと、試験が大変でした。電気科は科目数が多かつたからですね。

植尾：電子情報も試験科目が多く、特に、90分の試験が3つ重なったときは、ぐったりになりました。

西山：設計が大変だったということでしたが、建築学科は製図の提出とかもあり、大変だったでしょう。

江藤：思い出したくないくらいに大変でした。

西山：いろいろな場面で発表することとかは苦になることはなかつたですか?

一同：(みんな周りを見渡しながら)あまり、発表することが苦になることはありませんでした。

西山：ということは、学習・教育目標のA-3は達成できているということですね。では、次に、これをしておけばよかつたと思うような心残りなことはないですか?

堀内：もっと遊んでおけばよかった。

田中：いや。勉強しておけばよかった。

堀内：それじゃ、勉強しておけばよかった。

田中：それじゃ、遊んでおけばよかった。

堀内：さつき、勉強って言つたじゃない!

田中：勉強はしたから、もう勉強はいいかな。

松尾：田中は大学進学だろ!

田中：そうか。でも、大学では遊べるでしょ!

西山：いやいや、そうではないでしょ!

松尾：自分の心残りは、5年の高専祭が開催間際で間に合うか分からぬ状況になつたところでみんなが協力して

くれて間に合つたけど、団長として、もっと早くみんながやる気を出させるように計画を立てておけば、さらによい高専祭にできたのではないかと後悔しています。実際、とても悔しかったです。

江藤：何かスポーツをしておけばよかったです。高専では体育ぐらいしか運動していなかつたので、体が弱くなってしましました。

植尾：資格をとっておけばよかったです。ほかにTOEICの点数を上げておけばよかった。海外旅行をしておけばよかったです……。

西山：いろいろありますね。では、次に、5年間の高専生活を過ごした経験をもとに、後輩たちへのメッセージをお願いします。

堀内：今できることをちゃんとやっておいたほうがいいと思います。遊びも勉強も。

松尾：さつき言ったように、中途半端だと後悔するから、体育祭や高専祭、球技大会などの学校行事がよりよいものになるように、みんな協力してやるようにしたほうがよい。

植尾：部活や学生会などに参加することで、勉強だけでは学べないことも学べるし、人脈を広げができると思います。

田中：海外行ったりするなど、いろんなことにチャレンジしてほしいです。

西山：そういえば、田中君は、シンガポールに行っていましたね。ためになりましたか？

田中：すごくためになりました。

江藤：時間を上手に使ってほしいです。

西山：時間を上手に使うことは大事ですよね。何か私が言われているような気がします。では今度は、学校に対する要望等があれば、お願いします。

田中：海外インターンシップを作つてほしい。他の学校では実施していることがあると聞いています。

植尾：就職難で何度も就職試験を受けなければならなくなっているので、就職活動の時の欠課に配慮をしてほしい。そうしていただくと、欠課時数のことを気にしなくて、就職試験にのぞめます。

松尾：スクールバスを新しくしてほしい。イスが堅く、乗り心地がよくないです。他に、グラウンドを整備してほしい。部活動に関する設備が不十分だと思います。

江藤：校内の配置が分かりづらいためか、夏休みの保護者懇談会のときなどに、校外の方に建物の場所を聞かれるので、サイン計画（壁や柱に案内を記す、など）を行つてほしいです。



江藤さん



堀内さん



田中さん



植尾さん

西山：建築学科らしい意見ですね。それでは最後にまとめて、有明高専に入学してよかったです。よかったですと思うならばどういうことがよかったです？

堀内：遠くの人と友達ができたことです。普通高校に行ついたら、福岡や熊本の人と友達にはなれなかつたと思います。

植尾：私も同じようなことを思います。学生会の全国交流会に参加したのですが、そのとき八戸高専や苫小牧高専の人をはじめ、全国各地の人と友達になれました。今度、みんなで集まろうという話になつています。

一同：すごいね。

松尾：1年生から5年生までつきあうことで、上下関係が学べたことです。

西山：5年前、入学してきたときに、5年生の先輩はどんな風に感じました？

一同：怖かった。大人の感じ。

西山：今の1年生の感想は？

一同：幼い感じ。

田中：今の1年生も、自分たちのことを怖いと感じているのかな？

西山：入学して来たときには、5年生がすごく大人に見えていたけど、高専生活を送るうちにだんだん成長して、自分が5年生になってみると、そうでもないように感じる。さつき、松尾君が言ったように、1年生から5年生までいることで、普通高校と違い、年上の人とのつきあい方や年下の後輩とのつきあい方など、勉強だけでは学べないような上下関係も高専では学べたのではないでしょうか。

松尾：それ！僕が言ったことにしておいてください。（笑）

田中：高専に来ていなかつたら熊大には行けてなかつたよ

うな気がします。

植尾：就職難の時期に就職できたのも、高専に来ていたからだと思います。

一同：やっぱり、有明高専に来てよかったです。

西山：5年間、苦労したこと也有ったと思いますが、皆さんのが有明高専に来てよかつたと感じたのは、有明高専のよいところを感じて、それを高専生活に活かしてきたからだと思います。卒業されたあとも、大変なことがあるかもしれません、そこでのよいところを見つけて頑張って行ってください。ときには、後輩たちの頑張りを見に有明高専に戻ってきてくださいね。それでは、今日は、いろいろな話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。

## 退職教職員

平成23年3月をもって退職される教職員4名の方々に、つきの3つの質問に答えていただきました。

Q1 高専で最も思い出に残ることは？ Q2 高専あるいは学生に望まれることは？ Q3 今後のことについて一言。



電気工学科  
出来 恭一  
教授

- A1 8年前、有明高専に赴任した年、研究室の立ち上げに際し、私の出身企業や友人の企業などに協力をお願いし、レーザ部品を八方手をつくしてかき集め、また技術職員の皆さんのご協力で、卒研生とともにレーザ発振器を手作りし完成せたことです。
- A2 もう少し勉学にウエイトを置いてほしい。皆さん自身の将来、社会の将来は、皆さんがいかに技術について学び、進展させ、活用するかにかかっているのですから。
- A3 出身地の関西にもどり、当面2校ほどで非常勤講師をやりつつ、学生時代、中途半端で終わっていた量子物理の勉強を再開したいと思います。つきなみですが、趣味の園芸もやってみたいと思います。



物質工学科  
渡辺 徹  
准教授

- A1 物質棟改修工事で、反応工学実験室・自室・ガスクロ室の机の配置、使用電力量などの設計をしたことと、物質工学科棟1階の北側、電子情報工学科棟5階、図書館の3階、物質工学科棟2階へと4回引っ越しをしたことと、各部屋に借り住まいしたことが一番印象深く思い出されます。
- A2 学生は、自分の長所やしたいことを把握し、なるべく早くから目標や夢をもち、それに向かって努力して達成してください。また、高専の教職員は、学生がそのための基礎能力を付けることができるよう指導や環境づくりをし、学生を支えてください。
- A3 趣味として、テニスや読書や山歩きなどをして、心身の健康に留意し、地元の地域の活動にも貢献したいと思います。



建築学科  
切原 舞子  
助教

- A1 皆さんとの初日、始業式の日に4A（現5A）の教室に挨拶に行った時のことです。非常に緊張していましたが、温かく迎えてくれてとてもうれしかったです。それから3Aの皆さんとの1年間です。様々なことがありました。中でも築町イルミネーションプロジェクトでは、毎週末作業を進める中で、普段は見ることができない姿をたくさん見ることができ、驚きや発見、感動があり、非常に充実した時間を過ごすことができました。
- A2 これから先も元気で頑張ってください。苦しい時もあるでしょうが、なんとか踏ん張って乗り越えて、そして楽しい充実した人生を歩んでください。応援しています。
- A3 夢をかなえるべく、努力を重ねていきます。



前田 正満  
事務部長

- A1 高専に携わることになったのは、定年前の4年半前からです。それまで高専についてはほとんど無知でした。高専に来て、いかに社会から期待され、卒業生が活躍しているかがわかりました。昨今の厳しい雇用情勢を見れば、益々高専のよさが際立っていると思います。現役最後の数年を高専で過ごすことができてよかったです。
- A2 昨今の厳しい雇用情勢により、キャリア教育の重要性が叫ばれるようになっています。技術者養成を目的とした高専教育自体がキャリア教育そのものといえるでしょう。ようやく時代が教育の重要性に気づいてきたといつても過言ではありません。しかしながら、財政状況の悪化、少子化など高専を取り巻く状況は依然として厳しいものがあります。優れた人材を養成するという高専本来の役割を地道に果たして行けば、道は開けると思います。一層の学生や教職員のがんばりに期待します。
- A3 人生80年時代、第二の人生はこれからだと思っています。地元に帰り、少し仕事をし、残りの時間は家庭菜園、サイクリングなど趣味を楽しみたいと思います。

## 永年勤続表彰

永年勤続20年の教職員5名の方々に、思い出などをお聞きしました。



電子情報工学科  
中村 俊三郎  
教授

- 20年間の一番の思い出 情報4期生の卒業研究といえば15年ほど前、それまでの3年間の卒業研究を踏まえて、トランジスタ(MOSFET:モスフェット)を作成していました。学生がクリーンルームで防塵キャップの代わりに、バイト先(モスバーガー)のマーク入り紙帽子をかぶって製作していたこと。9ヶ月余りの学習と製作の後、完成したMOSFETがトランジスタの特性を示した時、学生の驚きの表情と歓声が印象深く思い出されます。
- 20年前と今について 会社を辞めてここに来た時、岩波の「情報科学辞典」を買いました。その中には「インターネット」という項目はありません。ずいぶん発達したものだなと思います。
- 学生に一言 高度な技術を学んで卒業していく皆さん！ これはそれほど有名な人の言葉ではありませんが、「知恵は良い方に使いなさい」。



一般教育科  
村岡 良紀  
教授

- 20年間での思い出 いろいろとあり、一番は決められません。国際学会へ出席していろいろな国を見る事ができたのは楽しい思い出の一つです。部活動関係では、長距離遠征となった釧路や名古屋での全国大会は、試合結果は伴いませんでしたが印象的でした。また最近では、本校卒業生や他高専の卒業生とともにハンドボールの試合に出場し、非常に楽しい時間を過ごすことができました。今後もこのような機会がありうるので楽しみにしています。
- 20年で自分が変わったところ 外見と体力の低下以外は余り変わっていないと自分では思っています。
- 学生に一言 時間がかかることや面倒くさいことを嫌がり、じっくり考えることを避ける傾向の学生を多く見ますが、自分で考えそして自分なりの理解・解釈に到達する努力を惜しまないで欲しいと思います。

総務課管理調達係の西原克明さんも、  
永年勤続20年の表彰を受けられました。



一般教育科  
井上 仁志  
教授

- 20年間の一番の思い出 2004年島根インターハイ男子200mで優勝したこと。無名の高専生でも頑張れば、日本一になれる事を証明できました。
- 20年で自分が変わったところ 髪の毛が寂しくなった。
- モットー 絶対にあきらめない。



総務課人事労務係  
楳崎 茂  
係長

- 20年間で一番の思い出 本校をはじめ、これまで様々な機関で働いてきましたが、社会人として未熟な時期に迷いながら無我夢中で仕事に取り組んでいたことが一番懐かしく思い出されます。社会人1年目、大学病院での夜間当直時に近所で事故があり、救急患者が次々に搬送され、その戦場のような慌ただしさの中、先輩に叱咤されながら徹夜で医療事務を行ったこと。社会人3年目の東京勤務時代、超満員電車に押し潰されながら出勤し、しかも仕事に不慣れなため残業続きで毎日のように終電で帰宅していました。辞職したいと思ったこともありました。その都度、職場の上司や先輩、同僚に励まされながら苦しい時期を乗り切り、糸余曲折を繰り返しながらも、何とか勤続20年目を迎えることが出来ました。多くの方々の温かいご支援に深く感謝しております。

- 20年で自分が変わったことは 若い頃は内向的な性格で読書とゲームが趣味のインドア派でしたが、仕事と職場の付き合いで揉まれたせいか嗜好が変わり、登山とスキーが好きなアウトドア派になりました。学生時代の友人が言うには、別人のようだそうです。

- これからの生き方は 年齢を重ねても好奇心と向上心を失わず、仕事や趣味に挑戦していきたいですね。疲れが溜まったら、美しい日本の山に登り英気を養うことにします。

## 留学生 -卒業を経て-



他国を見てみようと、家を出てもう4年経ちます。そのうちの3年間は有明高専での生活でした。今振り返ってみると、新しい言葉を習い始めて、皆さんとうまく話せるようになるまでの長い時間が経ったなと感じる反面、慣れない制服を着て、3年生になったのは昨日のことのようです。この3年間はすごくいい経験でした。周りがほとんど日本人で、毎日この学校で新しいことを3歳の子供みたいに習っていました。

## 5C サルナイ

皆さんと触れ合っていく中で、言葉はもちろん文化や習慣もここで習いました。日本人のちゃんとした性格や親切さは、ここで深く感じました。

違う世界から来て、言葉でも生活でも不自由を感じていた私を、先生や学生課の方々、学生の皆さんのが最初から最後まで、どんなに辛い時でも助けてくれました。皆さんのおかげで私はこの日を無事に迎えることができ、本当に楽しい思い出がいっぱいできました。この思い出を抱って、次の道へと進んで行きます。皆さん、本当にありがとうございました。

# 2010 アラカルト

## 出前授業(公開講座)



ロボット操縦体験



ペットボトルロケット



クリップモータ



人工イクラ



犯人を捜せ



液体窒素



ポンポン船



ライントレーサ



発泡スチロールスタンプ

## 3年生キャリア支援活動

平成22年12月7日(火)、3年生の各教室において、キャリア支援活動が行われました。これは、学生の進路設計に関する動機付けを行い、学生の職業意識の向上を図るために開催されました。各学科の卒業生5名の方を講師にお招きし、それぞれの卒業学科の3年生に対して講演を行っていただきました。

(進路支援室長 上原 修一)



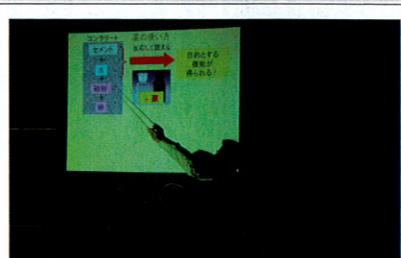
機械工学科  
不二ライトメタル(株) 原田 義史 氏



電気工学科  
ユニバーサル造船(株) 浦塚 精 氏



電子情報工学科  
信号電材(株) 遠藤 剛 氏



物質工学科  
中島物産(株) 中島 康宏 氏



建築学科  
新日鉄エンジニアリング(株) 江藤 均 氏

## 九州地区高専留学生日本文化研修

平成22年12月29日(水)～31日(金)の間、本校において九州地区高専留学生（冬季）日本文化研修が実施されました。

今回は、九州地区的5高専6キャンパスから9名の留学生と本校の寮生3名が参加し、日本刀作刀見学、柳川探訪、そば打ち、竹細工、折り紙、書のプログラムを体験しました。

参加留学生へのアンケートでは、このプログラムに参加して皆満足したとのことでした。特に、松永刀剣鍛錬所では、飾ってあった甲冑にさわらせてもらい「熊本城では、さわらせてくれないよ。」と大いに喜んでいたのが印象的でした。

(学生課長 高嶋重俊)



日本刀作刀見学：日本刀は重かった。試し切りも見学しました。見事です。



柳川下り：こたつ船です。時折、みぞれ交じりの雨がふる冷たい日でした。さらに、こんな狭いところを通るの？竹竿一本なのに、船頭さん さすが。



そば打ち：最後に、中村さんと西川さんに教えてもらひながら蕎麦を作りました。自分たちで作った蕎麦の味は、いかがでしたか？



折り紙：かぶと、奴さん、はかまを折って組み合わせると、昨日の鎧の様。鶴も折りました。



柳川御花松濤園：柳川藩主立花家別邸の庭園です。美しい。



書：好きな字を心をこめて表現してみました。初めて？ すごい！



竹細工：黙々と竹を削り、竹とんぼを作りました。

## 3A発 築町イルミネーション点灯

建築学科3年生が、築町商店街活性化事業の一環として9月から「計画発表会」などを行って取り組んできた「築町イルミネーション」が、12月23日(木)に点灯しました。当日は、築町公園で、オリジナルキャンドルを作る「灯りのワークショップ」も行われました。

(A科 加藤浩司、切原舞子)



事業に取り組んだ3A学生



時計台をシンボライズしたイルミネーション



ビルをツリーに

今回は、物質工学科の永田和美先生と建築学科の飛田国人先生の研究室をお訪ねしてお話を伺いました。

### 永田和美 研究室 (物質工学科)

●研究テーマについて教えてください。

高分子を担体として使って有機合成を行う「固相合成」についての研究を行っています。例えばタンパク質はいろいろなアミノ酸を決まった順番で結合させることにより合成されますが、これを生体外で人工的に合成するのに固相合成の技術が使われています。固相合成はタンパク質だけでなく医薬品など多くの物質の合成に応用でき、目的物によっては一般的な有機合成よりも簡便で高純度な合成を行うことが可能です。

●ずいぶん“濃そうな(笑)”研究テーマですが、それに取り組む研究室メンバーと、研究用でお使いになる機器などを紹介ください。

昨年度は育児休業中だったので、卒研生は4Cの女子3名だけです。今は研究内容や実験操作について勉強中でテーマを分けていません。研究室には実験台3つとドラフト1つがあり、HPLCやエバポレータを置いています。

●女所帯の研究室なのですね。先生が女性だと“希少な”理系女子も気軽に先生に相談できるのでしょうか。そういうえば永田先生はご出産もされて子育ての真最中と、何かと大変だと思うのですが、宿直など学校のお仕事は大変ではないですか？

子どもが小さいうちは寮の宿日直の免除や時短勤務が認められているので、働きやすい環境にはあると思います。とはいっても限られた時間で仕事や研究を行っていくのは自分も大変ですし、周囲にも迷惑をかけるので、悩ましいところです。

●いま文部科学省でも様々な制度で女性研究者・技術者の育成に力を入れているところですので、女子学生達の理想の将来像としてお仕事と子育ての両立に是非ともがんばってください。ところで、話を研究に戻しますが、今後はどのような展開を考えていらっしゃいますか？

これまで大学の研究室で開発された担体を用いて目的物を合成する方法を検討していたのですが、これからはその担体自身の開発にも挑戦してみようと考えています。担体の基体である高分子の構造を変えることによって既存の高分子担体よりも優れたものを開発できれば、身の回りのさまざまな物質をもっと効率よく合成できるようになるかもしれません。

●おお、意欲的ですね！最後に学生さんへのアドバイスをお願いします。

この実験をしたらどういう結果が出るだろう？ そのハテナが研究を進めていく原動力になります。まずは与えられた研究テーマに興味を持つことが大事です。そして、疑問に思ったことを調べてみたり実験をしたりして一つずつ解決していく、？が！になり、研究がおもしろくなっていくのだと思います。

●私も永田研究室への？が！になりました。どうもありがとうございました。



### 飛田国人 研究室 (建築学科)

●飛田先生と言えば、建築棟の前で家庭菜園よろしく学科菜園を營まれていますが、いったい全体どうしちゃったんですか？(笑)

日々生活していれば、調子の良いときも悪いときもあります。自分たちは違う社会の中で生きている植物を身近に感じることで、学校生活を少しでも心穏やかに、楽しく暮らしてもらえばと思って始めました。昨年は腰を痛めて耕せませんでしたが、今年こそは…。

●今年こそは稻作！でしょうか(笑)。楽しみですね。本題に入るとして、まずは研究室の概要について教えてください。

人が快適を感じる空間の温度、光、音、においは、どのようなものなのか。また、環境負荷を小さくするためにエネルギー消費量を少なくするには、環境をどうコントロールし、人はどう暮らすべきなのか。人にも環境にもやさしい空間をつくるために、人と住環境の関係について建築環境工学・心理学の視点から研究しています。

●研究室のメンバーはどのような構成でしょうか。

5年女子3人、4年男女各2人です。メンバーは大きく小中学校教室に関する研究グループと住宅に関する研究グループに分かれています。小中学校に関する研究では、冷房導入が小学生の集中力・快適性・体調に及ぼす影響を調べています。住宅に関する研究では、居住者の熱環境調節スケジュールや生活行為について調査し、冷暖房の省エネルギー化に人の側からアプローチしています。

●確かに先生のHPを拝見させていただいた「教室の空調が児童に与える影響」というテーマで学会などでもご発表されているようですね。そのような研究の視点から見て本校の教室の空調はいかがですか？

中央管理方式で冷暖房完備ロスナイ(熱交換型換気扇)付というのは、学校施設の空調としては充実している方だと思います。

●そうですか、本校の空調は比較的充実しているのですね。ところで研究室のみなさんはどのような進路にすすまれますか？

今年は建築設備関係に1人、建築資材関係に2人就職します。

●就職難の時代ですが誠に喜ばしいですね。最後に今後の抱負をお聞かせください。

Joel A. Barker著『PARADIGMS』より「You can and should shape your own future; because if you don't someone else surely will.(自分の将来は自分の手でつくれるし、つくらなければならない。さもないと、ほかのだれかに自分の将来をつくられてしまう。)」私は将来を自分でつくる人でありたいと思います。そして、学生が自分で将来をつくれるようになるためのお手伝いをしていきたいと思います。

●どうもありがとうございました。



シリーズ → 企業(卒業生)訪問

聞き手:広報室 松岡高弘

## 久留米市役所

(久留米市城南町15番地3)

久留米市役所建築職として勤務されている建築学科卒業生の梅野一徳さん(10期)・浜崎裕治さん(26期)・眞武容里さん(旧姓前田 28期)・畠香織さん(29期)・有富慎也さん(35期)にお話を伺いました。なお、仕事の関係で川上喜美子さん(旧姓堀 12期)と平川忠さん(22期)は不在でした。

**松岡:**久留米市役所の建築職として勤務されている卒業生は何名おられますか。

**梅野:**建築職は7名です。女性の建築職は市役所に4名おりますが、そのうち3名が有明高専の卒業生です。建築課には職員が13名配属されていますが、卒業生は私を含め、川上さん・浜崎君・眞武さん・有富君の5名です。

**松岡:**久留米市役所の建築職を職業として選択した理由をお聞かせください。

**眞武:**地元の久留米で建築関係の仕事や町づくりの仕事に関わっていきたいと考えていました。

**畠:**地元から通える建築職は久留米市役所以外にはなかつたので、志望しました。

**松岡:**仕事の内容を教えてください。

**浜崎:**市の建物の改修における設計や監理が主な業務です。

**梅野:**建築職の業務として、審査業務・設計施工業務など、業務が多岐にわたります。異動があるのでそこそこで勉強をしなければいけません。

**有富:**建物ができあがるまでのほとんどすべての仕事に関わらなければならぬし、他の課との調整や予算のこともありますのでとても大変で、忙しく、入る前には想像もしていませんでした。

**松岡:**卒業生が多い職場なので、仕事はし易いと思いますが。

**有富:**着任して1年もたっていないので、何でも相談がしやすく、とても良い職場環境だと思っています。

**眞武:**高専の先輩がおられるということは非常に心強く思います。

**梅野:**高専でどの程度の勉強をしているか、が分かるし、建築の基本的なことは理解できているので仕事を任せやすいと思います。後輩諸君は頼もしいと思っています。

**松岡:**久留米市役所の職員として仕事において意識していることはありますか。

**眞武:**税金で仕事をしていることを念頭に、公平・平等に判断すること、市民のために働いているという気持ちで仕事に取り組んでいます。

**浜崎:**小さい改修工事でも、現状を良くするための工事なので、良いものを造ろうという気持ちで取り組んでいます。

**畠:**わかりやすく、丁寧に説明をするように心がけています。間違ってはいけないので、気をつかいます。

**松岡:**仕事を通して得られる喜びはどのような時に感じますか。

**浜崎:**市民の方々から「ありがとう」という言葉をいただいた時、やりがいを感じます。

**眞武:**私が卒業した小学校の建替えという仕事は市役所だからできると思います。そのような恵まれた仕事に携われることをうれしく思っています。

**畠:**小学校の改修が終わってきれいになり、生徒さんが喜んでいるのを見たときが、一番うれしいです。

**梅野:**基本設計から竣工まで建設工事の全部の過程に携われること、自分が関与したものが形として残ることに喜びを感じます。

**松岡:**仕事をしていてどのようなことが大変でしたか。

**有富:**入って間もない頃、小学校の改修工事の担当となり、分らないことばかりで大変でした。過去の事例を調べて理解できるように努力しました。また、先輩にいろいろと相談をすることで、何とか現場を竣工させることができました。

**畠:**これまで建築課、建築指導課、教育部施設整備課で仕事をしてきましたが、異動するたびに業務内容が異なるので大変です。

**松岡:**最後に、学生へのメッセージをお願いします。

**梅野:**建築の仕事は広範囲におよぶので、計画・構造・環境など、高専で学ぶすべてのことに対する興味をもってほしいと思います。

**浜崎:**建築を好きになること、興味をもつこと。そうなれば、がんばって勉強をするでしょう。

**眞武:**学生のうちに建物をたくさん見てほしいと思います。そして、何でこのようになっているのか、を考えながら見てほしいと思います。

**有富:**ディテールに関心をもって見ておくと実務の時に役に立つと思います。

**松岡:**年末のお忙しいところ時間を割いてお話を聞かせていただき、ありがとうございました。また、久しぶりに卒業生にお会いして楽しい時間を過ごすことができ、ありがとうございました。



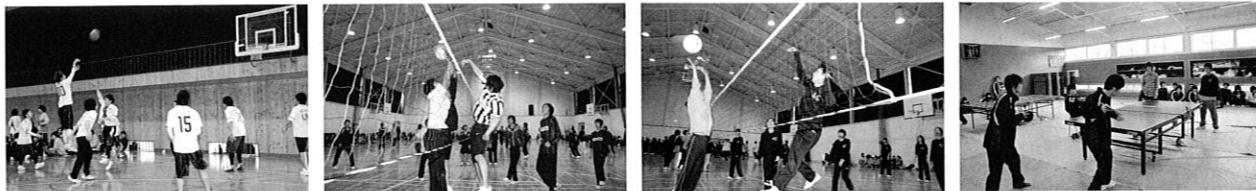
左から、梅野さん、眞武さん、浜崎さん、畠さん、  
川上さん、有富さん、平川さん

# 冬季球技大会

12月14日(火) 3M 中川 陽平

12月14日(火)に球技大会が行われました。前日の雨の影響で室内での競技となりましたが大いに盛り上りました。今回は4Mの3連覇がかかった球技大会でしたが、4Aが見事最優秀クラスを勝ち取りました。次回は、低学年も優勝を目指して頑張ってください。

最優秀クラス	4A	優秀クラス	2-3
種 目	優勝	準優勝	MVP
男子バスケットボール(A)	4M	専攻科	山口 晃
男子バスケットボール(B)	2-3	5C	古賀 壮一朗
男子バーボール	4A	5E	末次 猶輝
女子バーボール	4C	5A	田島 愛
卓球	4A	3E	中地 竜大



## 専攻科ポスターセッション

1月13日(木)・14日(金)

専攻科の特別研究を広く学内・外に公表し、その内容と成果を問い合わせ、一方で専攻科のPRを兼ね、1月13日(木)・14日(金)に、本校総合研究棟総合研究室で第9期生36名のポスターセッションを開催しました。2日間とも研究内容紹介のポスターを常時展示し、昼休みと放課後には、担当者が学外からの来校者、本校教職員や在校生に説明しました。

今年も昨年と同じように寒波により来場者が減少するのではないかと危惧しましたが、2日目はやや持ち直し、ほっとしました。ただ、学外からの来場者が少なかったようで、地域に密着した、あるいは今後地域連携で進められそうな研究テーマが少なからずあつただけに残念でした。もう少し早めの取り組みと広報によ

る周知徹底の工夫が課題です。一方、学生諸君の説明は昨年もそうでしたが、専門外の私にもよくわかるように、かみ砕いて、要領よく説明する仕方、プレゼンテーション力はさらに向上し、専攻科生のポテンシャルがいかに高いかと感心させられます。ただ、ポスターの方に改善の余地があり、論文としてまとめられるためか、読み解くのは難解に感じますし、今年は特にポスターが小さいものが目立ち、もっとスペースを十分活かしてさらにわかりやすくする工夫がいるのではないかと感じました。何はともあれ、専攻科2年生諸君ご苦労様でした。

(専攻科長 北岡敏郎)



## 吹奏楽部定期演奏会

1月15日(土) 4C 吉田 晴香

吹奏楽部は1月15日(土)に、大牟田文化会館大ホールにて第42回定期演奏会を行いました。演奏会のテーマは『楽奏』で、「演奏者と演奏を聴いてくださる方々が一緒に楽しめるように」という願いをこめて演奏しました。この定期演奏会は42回目を迎えることができましたが、これもご協力いただいた諸先生方、企業、OB・OG、保護者の皆様のお陰であると、部員一同心より感謝しております。本当にありがとうございました。

また、来年の1月28日(土)には第43回定期演奏会を行います。来年以降の定期演奏会では、例年の演奏会とくらべ開演時間が早くなります。開演時間の変更によりご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、部員一丸となって頑張っていきますのでどうか温かく見守っていただきますようお願いします。



# デザインコンペティション

11月13日(土)・14日(日)

11月13日(土)から14日(日)にかけて、『全国高等専門学校デザインコンペティション 2010 in 八戸』が八戸市公会堂・公民会で開催されました。今年度は『もったいない』をメインテーマに、環境・構造・空間・ものづくりの4部門でコンペティションが実施されました。環境・空間・ものづくりの各部門については、予選を通過した学生がいなかったため、本校からは構造部門のみへの出場となりました。

今回の構造部門は『どこでもブリッジ』を部門テーマとして、事前に3パーツ以上に分けて木製ブリッジを製作した後、それらを所定の箱に入れて会場に持込まなければなりませんでした。そして、会場でそれらパーツを所定の時間内に組立てて、変分布荷重による載荷で耐力比（予測最大荷重／自重）を競う内容でした。

開催日初日は、午前に受付やプレゼンテーションのための作品組立て、午後からは審査員と各チームの代表学生による質疑応答の時間でした。また、その合間にぬって2名の方による特別講演がありました。なお、当日はとても寒い日で、B級グルメとして有名な『せんべい汁』が参加者に無料でふるまわれました。その際に今回のメインテーマが『もったいない』ということから、食器は紙製ではなく、主催校である八戸高専の学生寮で使用されている食器類が使用されました。その食器類は、その日の晩に、また学生寮で使用されるとのことでした。

翌日は載荷でした。本校チームは、所定の時間内に木製ブリッジを組み立てることはできましたが・・・、所定の耐力を発揮することなく、載荷開始と同時にほぼ無傷の状態で載荷が終わってしまいました。事前に製作した接合部の接着が外れたことが原因ですが、参加した学生達は大変ガッカリしていました。

残念な結果となりましたが、高専祭や卒業研究の中間発表会などの多忙な時期に、何度も試作品を製作して、デザインの舞台に立てたことは、学生達にとって良い思い出になりました。(A科 小野聰子)



## HONDAエコラン

10月17日(日) 4I 江原 史晃

私たち自動車工学部は、HONDA エコ マイレッジ チャレンジ（エコラン）に毎年出場しています。今年のマシンは、前年度のアルミフレームマシンからカーボンフレームへ変更し、新しくマシンを作りました。これにより、マシンの軽量化と空気抵抗の軽減に成功しました。そして、ドグクラッチの改良を加え、マシンの転がりを改善しました。

ところが大会では練習走行で後輪の軸を止めていたナットが緩むというトラブルが頻発し、解決するまでに時間がかかり十分な練習をすることができませんでした。レースでは改造車部門は何とか完走し395km/lで大学・専門学校部門準優勝、市販車部門では燃料計測ミスなどがありましたが110.9km/lで3位という好成績が得られました。けれども結果としては部の目標であった改造車部門500km/lには届かず悔いの残る大会でした。

新年度では、新部長を筆頭にマシンの改良を加え、1000km/lを目標に頑張ってほしいと思います。



## ボランティア・コミュニティー賞受賞

2-2 松本 光、2-3 竹下 美海

我々ボランティア愛好会は、大牟田市内の活動、特に、はやめ地区での活動を中心としたボランティアを行っています。今年度は勝立地区の大蛇山祭り、はやめ地区のそうめん流し大会、認知症の方々の徘徊訓練に参加し、舞台設営・運営等に協力しました。

先日、顧問の焼山先生から薦めを受けて「ボランティア・スピリット賞（アワード）」に応募しました。これは青少年を対象としたボランティア活動支援プログラムであり、ボランティアに従事する同志たちへの情報発信・交換を目的としたものです。

うれしいことにコミュニティ賞を受賞することができました。いただいたメダルと賞状を手にしたとき、自分たちのやってきた活動が確かなものになってきているのだと実感しました。これを励みにこれからも地域に根ざしたまちづくりのため、積極的に自分たちから地域の輪の中へと入っていきたいと願っています。



# 新学生会



今回、新学生会会長に就任しました4年機械工学科の秀山文彦です。

この度、みなさんの支持を得て会長に就任することができ、大変うれしく思う反面、今後の運営への責任の重さも感じています。前年度は副会長として前会長の補佐ならびに諸活動の運営に携わり、また高専祭でも設営パートリーダーとしてたくさんの経験を積むことができました。この経験をもとに、今後の学生会運営をより良いものにできるように努力していきたいと思います。

まずは、今年度の学生会役員を紹介します。昨年各局の活動内容の見直しを行ったため基本的な構成は変わりません。今年度は3役ならびに各局を合わせ、33名の役員と例年より少ないですが、その分全員が動いて頑張っていきたいと思います。不慣れなこともあると思いますが、よろしくお願いします。

さて、今年学生会が取り組まなければならないことは、昨年同様学生のマナーだと考えています。この問題については、数年前より指摘されており、特に校内では飲食や食べ歩きなどが目立ちます。これが改善されないようならば売店の販売品目を制限するとの警告を学生会として受けました。そこで今、本格的に改善活動に取り組んでいく必要があるのです。学生一人ひとりが意識を変えていくためにも皆さんのご協力お願いします。

また、もう一つ、今年は朝の挨拶運動を、1年を通して継続していきたいと思います。この活動を続けることで、学生の皆さんに学生会役員全員の顔を覚えてもらうとともに、学校全体の雰囲気を把握することができると考えています。これからもより良い有明高専を目指して、皆さんも共に頑張っていきましょう。

## 学生会役員研修

12月11日(土)、新旧の学生会役員20名と学生主事室3名により、学生会役員の研修が行われました。

各人の自己紹介の後、今後の学生会活動について旧学生会役員と新学生会役員の意見交換が行われました。また、現在行っている挨拶運動やペットボトルキャップ収集運動の継続の確認、そして来年度の学生会行事（体育祭、球技大会）の日程が決定されました。続いて、学生主事室から、売店で購入した食べ物の食べ歩きやごみのポイ捨てに関する問題について話がありました。この問題は昨年度の学生会役員研修でも議論され、学生会も改善のための活動を行ってきましたが、ほとんど改善が見られませんでした。そこで今回は、球技大会の際に新学生会長の秀山君からこの問題について説明を行い、今年度中に改善が見られない場合は売店の販売品目の縮小がなされることがアナウンスされました。

**4M 秀山 文彦**

### 平成23年度 学生会新役員

会長 4M 秀山文彦

副会長 4M 安藤 涼 2M 柿原大輝

体育局	3M 中川陽平 2M 中村太紀(2-3) 2M 鳥越 航(2-5)	3M 大仁田恵悟 3I 徳島光一
-----	---	---------------------

放送局	3A 角田雅季 2C 葛西夏樹(2-4)	3C 山田香織 1I 日高大成
-----	-------------------------	--------------------

文化局	4I 吉丸哲史 4A 里中拓矢 1M 川口元貴	4I 井上優良 3E 平島 凌 1M 青嶋 嵩
-----	-------------------------------	-------------------------------

会計局	4A 山崎春菜 3I 古賀 亨	4A 真弓 遥 2E 宮原佑輔(2-1)
-----	--------------------	-------------------------

涉外局	4E 乙丸裕輝 3I 樋口友崇 1I 安部成就	4E 柴田宏樹 2A 百田直美(2-4)
-----	-------------------------------	-------------------------

報道局	4E 宮園龍弥 3E 三宅健吾 1A 堤 大智	4E 齊藤武徳 1I 加藤寿大
-----	-------------------------------	--------------------

整美局	4C 吉田晴香 2A 池田辰弥(2-3)	2M 堤 翔太(2-5) 1M 竹下雄喜
-----	-------------------------	-------------------------



**12月11日(土)**

新学生会が今までの学生会の取り組みを引き継ぎ、有明高専がより発展するような活動を展開してくれることを期待します。  
(学生主事補 藤本大輔)



# 岱明寮だより

## 寮長挨拶



皆さんこんにちは。新しく寮長になりました4年機械工学科の鈴木拓磨です。

最近では一年生の挨拶もしっかりとでき、とてもうれしく思っています。指導においては、集団生活を乱さないよう厳しい

点もありますが、これから社会に出て行く中で必要になっていきますので、指導寮生とともに寮生会一丸となって最大限の努力をしていくつもりです。ご理解のほどよろしくお願ひします。これからの寮生活でまだまだ改善していく点が多数あります。これらの改善点をいち早く見つけ、住みよい寮を作つていこうと寮生会全員で頑張っていきますので、よろしくお願ひします。

## 4M 鈴木 拓磨

### 寮生会役員 平成23年1月21日現在

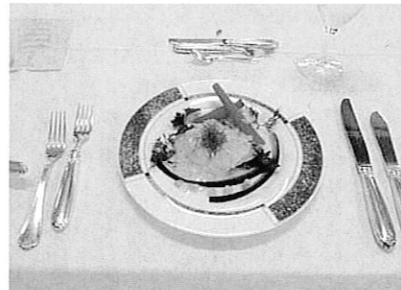
寮長	4M 鈴木 拓磨
副寮長	3I 高田 翔太 4A 菊川嵯千枝

局名	局長	副局長	
会計	4C 藤井 景	3E 三宅 健吾	
整美	4C 山下 修平	2A 田端 優希	2I 東 優子
報道	4M 古井 駿平	4E 宮園 龍弥	
給食	4M 安藤 涼	2A 渡邊 真珠	2C 松田由紀美
棟名	棟長	副棟長	
銀杏	4A 福島 和哉	3M 池上 翔太	
紅葉	2A 櫻木 卓矢	2M 堤 翔太	
青葉	現1年生から選出予定		
若葉	3M 小宮 大志	3I 德島 光一	
桜	4A 菊川嵯千枝	4I 花桐詩端香	
指導寮生	3M 小宮 大志 3C 金子 匠	3I 德島 光一 3C 古賀 礼華	3E 三好 廣和 3A 熊添 梢
校棟指導寮生			

\* 棟長・副棟長・指導寮生は23年4月から24年3月まで

## テーブルマナー講習会

12月11日(土)に5年生を対象(参加者15名)として、本校修己館の食堂にてテーブルマナー講習会が行われました。西洋フード・コンパスグループ株式会社のホテル部門の方々を講師としてお招きし、西洋料理や食事のマナーについて説明して頂きました。参加した寮生はスーツ姿で緊張しつつ、フルコースの料理を美味しく味わいながら、社会人としてのマナーのひとつを学びました。 (寮務主事補 下田誠也)



## 寮生送別会

1月22日(土)に、恒例の送別行事(予餞会)を実施しました。第一部では、校長先生による挨拶に続き、全員で会食をしながら、プロジェクトを使って5年生の思い出の写真上映が行われました。その後、5年生代表による挨拶と記念品贈呈が行われました。第二部では1年生・2年生の5グループによる余興と5年生によるスピーチ、5年生担任による「はなむけの言葉」、余興の最優秀グループと最優秀演技賞の表彰式の後、万歳三唱で閉会となりました。

5年生の皆さん、卒寮おめでとうございます。岱明寮での生活は皆さん的人生の大きな財産となることでしょう。今後の健康とご活躍を祈念します。 (寮務主事補 下田誠也)



# トピックス

## カナダだより -UofTにて-

2010年12月、UofT (University of Torontoのこと) の土木工学科1年生を対象とした授業で、本校建築学科のブリッジ耐力競技のようなものが行われていたので、急遽、私も橋を作成し「有明高専ここにあり！」と勢い勇んで参戦しました。しかし、つまらない製作ミスで不甲斐ない結果に終わりました・・・。実験の雰囲気は至って本校と同じ、UofTの学生たちは載荷の様子を真剣に見守るとともに、楽しんでいました。異なる点は、それらのことと、彼ら自身が授業で学んでいることを強く結び付けようとしていることだと思います。彼らは授業でも物凄く真剣。何が違うのか？北米留学中の本校卒業生やワーキングホリデーなどでTorontoに来ている日本の学生たちと話す機会がありました。「学生たちの目的意識が違う」。一様に皆それを感じるのであります。こちらで会う日本学生たちは「もっと早く気づいていれば・・・」という声もしばしば聞きます。

一方、君たちはまだ十分若いのです。「目的意識を持つて日々を送れば、努力を重ねれば、自分にとってより良い

## A科教員 岩下 勉

結果がもたらされるのは間違いない。」、それは誰もが分かっていることだと思います。そして、さらに大事なことはそれを実行することでしょう。君たちが何かに気づき、日々充実した学校生活を送ってくれることを望みます。私たち教員は、その手助けを行うことに過ぎません。真に実行するのは君たちなのです。



実験の様子と制作した橋

## ベンチャー・ビジネスプランコンテストで優秀賞受賞

第10回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストが平成22年12月22日(水)に開催されました。21大学・高専から47プランの応募があり、7プランが最終プレゼンを行いました。

有明高専からは電子情報工学科の豊福卓哉君(専攻科)、野口卓朗君(専攻科)、松田倫明君(5年)、笹尾嘉則君(5年)が「表面筋電位を用いた身体障害者支援システム」で、昨年の九州経済産業局長賞に続き優秀賞を2年連続で受賞しました。高専で培った技術に加え、ビジネスの視点を身につけることによって、ベンチャーマインドの高揚につながったことだと思います。

(I科 石川洋平)



## 全国高校習字硬筆展で高等学校長協会賞受賞

2A(2-2)藤本ちひろさんが、財団法人日本習字教育財団主催の第3回日本習字硬筆展において、全国高等学校長協会賞を受賞しました。

小学生から一般までの応募総数は54,556名(高校生10,530名)、特別賞受賞者は51名で、藤本さんの作品はその中の一つに選ばれました。



## お知らせ

- 平成23年度授業参観は5月2日(月)に開催されます。
- 本校は、平成25年に創立50周年を迎えます。

## 編集後記

公園の梅の花がほっこりと咲いているのを見かけました。もうすぐ春ですね。

今号では、卒業を控えた5年生に、高専での思い出や今後の抱負などを語ってもらいました。この春卒業を迎えるみなさんは、入学してからのさまざまな思い出が蘇ってきたのではないでしょうか。温かな春の訪れとともに、卒業する5年生に限らず、在校生のみなさんもそれぞれの新しいステージへ進むこととなります。今の学年にやり残したことはありませんか。

1年間を最高の形で締めくくることができるよう、残り僅かな時間を精一杯過ごしてください。そして、みなさんの春が、花咲く春になりますように。

(広報室 中園洋子)

## 有明高専だより 第133号

平成23年2月23日

編集：有明高専広報室  
発行：有明工業高等専門学校  
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150  
TEL 0944-53-8861 (学生課)  
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>  
花咲く技術を-Here are Lights-

